

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	向上心を引き出す授業の創造
目標（評価規準）	自分の考えをもち、いきいきと表現する児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	基礎・基本の定着と理解力・表現力・思考力の育成は依然として課題である。学校研究・指導の工夫・改善に取り組むことで授業力の向上を図り、「分かる・できる」授業を実践するとともに、全体を見渡した学習支援体制を充実させることで児童自ら学ぶ力の育成を目指したい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にプラス評価が多い。 ・校内研究に、もっと指導主事に関わっていただき、教職員の知見を深めていきたい。 ・今年度は保護者向けに読書に親しむための啓発活動を行ったが、家庭との連携という面でさらに手立てを考えていきたい。 ・基礎学力に差があるものの、全員の学びが深まるように留意して授業づくりを行うことができた。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「工夫して分かりやすく教えてくれる」「分からないところをていねいに教えてくれる」「自分の考えや意見を大切にしてくれる」「先生の言葉は分かりやすくていねい」等、全体的にプラス評価である。 ・保護者の多くは、「意欲的に学習しようとする授業を目指し、努力・工夫している」「基礎的な学力を身に付けられるよう、努力・工夫している」ことについて理解を示している。 ・児童・保護者とも、家庭での学習や読書の定着に課題があることを認識している。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>「自ら学ぶ子」という研究主題を掲げ、①「友達の意見を受け入れ意思表示ができる子」、②「自分なりの目標を設定して取り組める子」という2つの目指す子ども像を立て、その実現を目指し学校研究を推進してきた。研究2年目の今年度は、新たに「学びのプラン」という手法を導入し、これまで以上に、子どもの視座に立った授業づくりを意識して授業実践を重ねた。</p> <p>教育活動のさらなる充実を図るため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員の指導力向上、研究・研修の充実 ○「学びのプラン」のさらなる研究・活用 ○指導の工夫改善の継続的な取組 ○児童の意欲を高める手立てを考えた授業づくりの推進 ○家庭との連携による学習習慣・読書習慣づくり
学校関係者評価結果	<p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容について中学校と連携できるとよい。 ・児童・生徒アンケートについても、共通の項目もあっても良いのではないか。 ・読解力の育成を図るためにも、読書習慣は必要である。
最終改善方策	<p>今後もさらに「確かな学力」の定着をめざし、教育活動の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践を柱とした学校研究を推進することで、指導力の向上を図る。 ○指導法改善による指導の工夫とともに、個に応じた学習支援体制を整備する。 ○家庭と連携し、家庭学習、読書習慣の充実に努める。

本年度の重点	2	人権感覚豊かな学級・学校の創造
目標（評価規準）	認め合い、高め合う児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	<p>集団生活において、他者とかかわることが苦手な児童も見られる。日常的な様々な場面において、自他を理解し思いやりの心をもって他者に接することのできる「豊かな心」の育成を目指したい。また、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的な支援体制の充実を図りたい。</p>	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にプラス評価が多い。 ・異学年交流をより増やしていきたい。 ・みんなが学びやすい授業という視点での授業づくりに加え、具体的な手立てを引き続き考えていきたい。 ・今年度校内職員研修で行ったインクルーシブについて、学んだことを生かしていきたい。 ・全員が心地よい学級を追求し続けた。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「学校はたのしい」「友達と仲良くしている」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる」と感じ、学校が安心でたのしい場所となっている。 ・保護者の多くは、学校が「児童がいきいきと楽しい学校生活を送れるよう、日常的な指導・支援をしている」「思いやる力や自己肯定感を高めようとしている」ことに一定の理解を示している。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>人権感覚や道徳心向上の指導・支援への努力に対して一定の評価はあるが、今後も更に適切な指導が必要である。</p> <p>多様性・公平性・包括性の視点で学級づくり・学校づくりのり・デザインに取り組む。</p> <p>人間関係の醸成・規範意識の向上を図り、豊かな心を育てるため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童理解の充実、日常的な指導・支援 ○児童一人ひとりに寄り添う視点に配慮した学級づくり・学校づくりの推進 ○異学年活動、体験的活動の充実 ○剣崎小学校との交流活動の充実
学校関係者評価結果	<p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のコミュニケーションを伴う教育活動が、コロナ禍以前のレベルに戻った。 ・引き続き、児童の活動を増やし、「豊かな心」の醸成を望む。
最終改善方策	<p>今後もさらに「豊かな心」の育成をめざし、学校生活の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童指導において、学校・家庭との共通理解のもと、組織的な支援体制を中心にした対応に努める。 ○配慮が必要な児童を含めたすべての児童が安心して過ごせるような学級づくり・授業づくりに努める。 ○児童自らが人権意識、規範意識、道徳心を育む機会の充実を図る。

本年度の重点	3	家庭・地域との連携と健康・安全教育の推進
目標（評価規準）	心身ともに健康な児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	心身ともに健康な児童の育成には、安心して過ごせる学校環境と豊かな教育活動の展開が望まれる。様々な方法で学校の状況を情報提供し、家庭・地域とともに子どもを育て、学校を作っていく連携の充実を目指したい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や学習習慣について通信等で共有し、引き続き一緒に取り組んでいけるようにしたい。 保護者は温かい心の方ばかりなので、頼りにしつつ地域とのかかわりをより増やしていきたい。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学校生活に関心を持ち、保護者会や学校行事に参加・協力しようという保護者の意識は高い。 保護者の多くは「各種通信による情報の発信」「連絡対応や相談活動」についてプラスに評価しているが、「安全な環境」については評価が若干低かった。 児童・保護者とも、「宿題以外の家庭学習」や「読書」についての課題認識がある。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>P T A活動・読み聞かせボランティア・図書ボランティア・見守り隊などの家庭・地域と連携した活動については、コロナ前の状態にほぼ戻すことができた。</p> <p>家庭・地域と連携し一定の活動を推進することができた。また、積極的な情報提供と丁寧な対応は、評価される結果となった。</p> <p>児童・保護者が認識している課題への対応や開かれた学校づくりへの取組を継続発展させていくため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信活動の充実と地域教育力の積極的な活用 ○統合を視野に入れ、剣崎小学校が行っている地域との連携行事にも積極的に参加する。 ○より良い生活習慣や学習習慣づくりを目指した保護者との連携 ○安全な環境を保つための施設・設備の改善及び関係機関との調整。
学校関係者評価結果	<p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍も明けたので、希薄になりがちであった学校と保護者・地域とのコミュニケーションを活性化し、連携を深めていく必要がある。
最終改善方策	<p>今後もさらに「家庭・地域との連携」や「安全・安心な学校」を継続発展させていくため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努めるとともに、安心・安全な教育環境づくりの推進を図る。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。